行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569
東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所 村上研究室
Tel & Fax 03-5421-8766

道具は原理を知ってこそ使うべきか

足立 浩平

巻頭言を私のような若輩が記すのは恐れ多いことと存じますが、これからは若手・中堅の会員も執筆するとの編集方針をお聞きし、書かせていただくことにしました。

さて、方法論の中でも統計解析は、専門外の人にとって原理の理解が難しい分野であると聞きます。最近は、コンピュータのソフトウェアなど道具だてが進歩して、誰でも容易にデータの解析ができますが、ユーザーには解析法の原理が十分に知れ渡っていません。例えば、文科系の分野では、最尤法の着想なども(「尤」を「ユウ」と読むことも)あまり知られていないようです。原理を知らないことから、統計解析を専ら盲信して、道具の駆使に徹するなどの傾向に至りがちです。

いくぶん極端な例を考えることにします。二群のデータ分布を眼の前にして、群間の異同を結論づけようとする架空の人物A氏とB氏です。A氏は原理を知らないがソフトウェアには精通して、適切な集計と検定を行い、一方、B氏は便利な道具を知らず、二群のヒストグラムを重ねあわせて、重なり具合から自分なりに結論を出そうとします。両者を比較すると、慣習的にはA氏が受け入れられ、B氏の論文にはクレームがつくかも知れません。しかし、わずかでも原理への接近を試みている点では、B氏の方が高いレベルに居ると思われます。

原理を知ることで、多くの恩恵を受けることができます。おそらく統計解析も発展途上の学問であり、多くの手法は必ずしも完備ではありません。エッセンスだけでも原理を理解していれば、例えば、解析にどの程度の信頼を寄せてよいかの見当がつくはずです。この例以外にも多くの恩恵があるでしょう。さらに、近づき難い数学的な装いに反して、解析法の考案の端緒となった創案者の身近な着想を、原理の中に見れることもあります。原理を知らず、コンピュータを使いこなすだけでは、まるで「年号と人名だけ憶えて歴史を学んだと思う」かの如く寂しいものです。

しかしながら、前段までの主張は多分に極論であり、私自身の日常を振りかえっても、原理を知らずに使っている道具が沢山あります。例えば、コンピュータの中味をよく理解せずにプログラミングを行っていますし、カメラは仕掛けを知らずに済む自動調節のものを使うなど、前段の主張とは矛盾した生活を送っています。さらに、研究レベルのことに目を向けると、ユーザーにあたる実質科学の研究者が、解析法の細かい原理を勉強するほど暇ではない事情もあります。学際化に伴って、どの分野でも周辺領域に深く精通する必要性が増していますが、精通すべき領域にもプライオリティがあります。例えば、臨床心理学者にとって、狭義の専門以外に医学、社会学、哲学や文化人類学などを把握する必要が生じれば、統計学の優先順位は低くなると推察されます。同じ事情で、私も計量心理学に興味を持って以来、プライオリティの高い統計数学のため、純粋な心理学からはいくぶん遠ざかっています。

以上、前半とは反対に、原理志向の非現実性を二つの点から述べました。この二点に加えて、もし誰もがデータ解析の原理を理解したなら、方法論の専門家の必要性が低減し、例えば、心理学の分野では計量心理学の存在意義がなくなってしまうかもしれません？

行動計量学会はデータ解析の原理と道具の両者を扱い、標題に掲げた問いかけに、ずっと関わっていくことになるでしょう。ここでは、結論めいた話や精緻な議論はできませんが、思いつくままに素朴な視点や感想を述べました。

(あだち こうへい，甲子園大学人間文化学部)

委員長・担当理事ご挨拶

前号に引き続き新委員長・担当理事より、原稿をいただきました。

編集委員長として

編集委員長 繁桝算男

欧文誌編集委員長として、6年間勤めましたが、今度は、編集委員長に就任しました。学会誌は、文字通り学会の顔であり、毎年行われる大会と同様、行動計量学会の研究の力量と方向性が、正直に反映されるものです。欧文誌編集委員長の責務を担っていたときにも、もちろん、このことは自覚していましたし、欧文誌が英語でかかれた国内誌であってはならないと承知していました。しかし、最初のフレッシュな気分のときはともかく、後半、息切れし、やり残したことがいっぱいあります。この点、和文誌、欧文誌の今度の編集委員長に期待するところは大きく、ふたつの雑誌をきちんと定期的に出すだけではなく、是非、レベルの高い研究を満載して、多くの読者を獲得したいものです。これからの3年間は、ふたつの編集委員会のご努力を応援し、且つ、全体的な方向性を考えていきたいと思います。よろしくお願いします。

学会をもう一まわり大きく、御協力を

事務局 村上征勝

諸々の事情から、学会事務局は統計数理研究所にあった方がよいということで、一番ひまそうにみえる（ひまであるというと自らの首をしめることになりそうなので）私が、またまた事務局をお引き受けすることになりました。3期目です。学会の財政状況は前期までででかなり改善されたように思いますので、今期は学会員の大幅増を計り、もう一まわり学会を大きくできたらと考えています。よろしく御協力お願い致します。

(※村上理事は、各賞選考担当理事を兼任されています。)

名誉会員担当理事

上笹 恒

6年振りに2度目の理事に選出され、今回は名誉会員担当となりました。

今年度の第三回理事会で、これまでの「会則検討委員会」による検討事項、理事会の了解事項、他学会の例（詳細な要件で厳密に規定しているもの）などを参考にしながら、今後の選出方法を審議しました。その結果、「会則に従って理事会で検討し、総会に諮る」という従来の方法を、当分の間続けることになりました。

もし、何かのご提案がございましたら、担当の方にお申し出下さい。

行動計量学会の原点にかえって

大会担当 岩坪秀一

行動計量学会は、学際的であることに存在意義があるが、学会設立後四半世紀を越えた現在、その本来の持ち味を発揮しきれていないと思う。方法論に興味のあるグループとその応用に関心のあるグループとの間で、対等且つ有機的な交流が十分になされているとは言い難い。

年1回の大会における研究発表の場こそ、新しい方法論と応用研究が生み出される絶好の機会だと思う。そのためには、出来る限り多くの専門分野を背景にした研究者が、大会において一堂に会して刺激を与え合うことが重要である。

大会担当理事の新しい任務に、大会実行委員会のお手伝いをして会員諸氏が満足のいくような研究交流の場を設定・企画することがある。遠慮のない自由な雰囲気の中から研究の新しいアイディアが生まれる。大会における研究発表の形式、共通テーマの設定等をいかに工夫すべきか、実行委員会と共に知恵を絞っていきたいと思う。大会のあり方について会員諸氏の斬新な提案を歓迎したい。

iwatsubo@rd.dnc.ac.jp
Tel:03-3468-3311
Fax:03-5478-1297

広報(会報)担当理事

菊地賢一

前号の編集後記でもご挨拶させていただきましたが、今年度より広報(会報)担当理事をさせていただくこととなりました。前年度までは、主に学会のWebページの更新作業をさせていただいておりましたが、今年度からは会報の方も担当させていただくことになります。

私の文面で紙面をとるのは気がひけますので、作業を手伝っていただく先生方を紹介させていただきます。会報作成は、今号から新潟大学の西山悦子先生にもお手伝いいただき、統計数理研究所の前田忠彦先生と3名で担当させていただきます。また、Webページの方は、立教大学の山口和範先生、統計数理研究所の前田忠彦先生、東京大学の大森拓哉先生にお手伝いいただき、4名で更新作業を行っていきますので、よろしくお願いいたします。

平成12年度第2回理事会議事録

（平成12年5月29日）

1．第28回大会について

繁桝大会実行委員長より第28回大会の大会プログラムの概要、予算案、協賛団体、大会申し込み状況などの準備状況について説明があった。

2．各種委員会報告

・繁桝編集委員長より学会関係の印刷物の著作権に関する英文訳の原案が示された。

・久保和文誌編集委員長より編集状況及び26巻2号は6月中に刊行予定との報告があった。

・狩野欧文誌編集委員長より、新編集委員会の委員及び欧文誌の編集状況について報告があった。また編集委員は英文ではmanaging editorとなっているがこれを変更したい旨の提案があり、次回までに具体的に提案してもらうことになった。非会員の外国人のEditorをさらに追加した方が良いのではないかという提案もあり、これも次回までに検討してもらうこととなった。

・山岡運営委員長より、14名に運営委員を依頼した旨の連絡があった。また学会運営に関し会員の声を広く汲み上げる新しい企画を考えてほしい旨の要求が出された。

・岡太組織検討委員長に代わり、杉山理事長より組織検討委員会の委員及び役員選出に関する細則の変更についての検討状況の報告があった。

・事務局より会員異動について報告があった。これに関し長期会費滞納会員のあつかいについて議論があり、次回までに会費滞納者の分布を調べることとなった。また会員名簿作成の準備を進めているとの報告があった。

・広報担当の菊地理事より、会報が6月1日発行予定であること、学会のWebページについての検討事項及び現在の掲載内容等についての報告があった。また今後の運営方針について説明があった。

・上笹名誉会員担当理事に代わり杉山理事長より、名誉会員の推薦については次回の理事会で報告する旨の報告があった。

・岩坪大会担当理事から次回開催校は現在検討中である旨の報告があった。

・村上学会賞選考委員長より理事及び各委員会委員に平成11年度の学会賞の推薦依頼をすることが報告された。なお今年度は理事会及び委員会が新しく組織されたこともあり、推薦は新旧の理事、各委員会委員に依頼することとなった。

日本学術会議の報告

第4部会員 吉村 功

私の任期、第17期3年間はこの7月で終ります。これが最後の報告です。いつものことですが、私が注目した題材に焦点を絞って報告します。

6月6日から9日にかけて、総会、部会、連合部会、各種委員会といった一連の会合が行われました。総会というのは会員210人の全体集会で、外部に発表する声明、報告書などが検討されます。今回比較的大きく取り上げられたのは、常置委員会の改組と、男女共同参画の推進のことでした。

常置委員会というのは、期を超えて継続している委員会で、7つあります。これを改組して6委員会とし、名前を番号でなく内容で表わすように変えることになりました。そのときに焦

点となったのが私の所属していた第2常置委員会でした。従来はこの委員会の仕事を、「学問・思想の自由並びに科学者の倫理と社会的責任及び地位の向上」としていたのですが、これを「学問の自由及び科学者の倫理・社会的貢献」と変えることになったのです。議論の焦点は、なぜ今「思想の自由、社会的責任」という表現を外さなければならないのかということでした。たとえば「思想の自由は憲法で保証されているからここで特に取り上げる必要がない」「貢献という方が積極的前向きな表現だ」というような説明がなされましたが、腑に落ちないという顔の会員がかなりたくさんいたようです。

学術会議には、常置委員会の他に、やや臨時的な特別委員会があります。その一つが「女性科学者の環境改善の推進特別委員会」です。ここで議論されたことを基にして、次の内容の声明を学術会議として出すことになりました。

「1）日本学術会議の自己改革に関する重点項目の一つとして、女性会員の比率を今後10年間で10％まで高めるという目標値を設定する。2）学術研究団体登録手続きの様式を改訂し、代表者の性別、及び会員・役員・会誌編集委員・論文審査委員等の総数並びに男女別数を会員推薦依頼時に公表する。3）会員推薦に関する学協会等への会長要請文書等に対して、どのような対応がなされたのかを調査し、公表する。4）研究連絡委員会の女性委員比率を高めるよう、更に努力する。」

第18期の女性会員数は、この報告を書いている時点では詳細不明ですが、今期の2名より3倍以上に増えると予想されています。といっても、210名中3％程度ですので、10％の目標を達成するには、各学会での積極的な方針が必要です。統計学研究連絡委員会にも現在は女性委員がいませんが、なんとか次期には、女性委員を推薦するようお願いします。

統計学研究連絡委員会は、数学研究連絡委員会及び科学教育研究連絡委員会と一緒に、「数学教育の改善をめざして」という表題のシンポジュームを3月24日に行いました。統計学研連からは、柳川堯、岸野洋久、大瀧慈の3氏に報告討論に参加していただきました。数学教育は統計教育とも大変関係が深いので、機会がありましたら、それぞれの方に感想や意見を尋ねてみて下さい。

従来は文部省が行っていた科学研究費補助の半分以上の部分が今年度から、学術振興会に移されています。学術振興会では、補助金の支出を今までより2ヶ月くらい早くして、5月頃から使えるようにしようとしています。その関係で、今年度は申請の時期が2ヶ月くらい早くなるはずです。会員の皆さんは、見逃さないことと、積極的に応募をされるようお願いします。科研費総額は申請が多いと多くなる傾向がありますので。

日本行動計量学会
第28回大会のご案内

日本行動計量学会第28回大会は、10月7、8、9日に、東京大学駒場キャンパス(京王井の頭線駒場東大前駅下車)にて開催されます。多くの学会と協力し、実際のリアルな問題に関連した、多彩なプログラムが予定されています。8日、9日と連休で、ご予定が重なるかもしれませんが、次の大会までの研究の糧として、ご出席くだされば幸いです。

特別講演としては、Donald B. Rubin 教授(Harvard University)が、「ベイズ的階層モデル」と題して、多くの分野で実績を積み上げつつある、ベイズ的な方法の最先端の状況について、講演されます。シンポジウムとしては、環境問題の解決のために行動計量学がどのように寄与できるかを考えます。システム科学の市川惇信先生、意思決定の松原望先生、環境計量の中根英昭先生、心理的リスク評価の楠見孝先生によるシンポジウムのタイトルは、「環境問題と計量」です。

また、特別セッションとしては、以下の18のテーマが予定されています。多くの学会との合同企画となっています。

1　成長・発達データにおける多変量解析の効用と限界
2　法学研究と行動計量学
3　定性情報のマイニング　－自由回答・自由記述データの取得法と応用可能性－
4　臨床心理学における認知の計量
5　空間認識力の測定・計量
6　スポーツデータの計量

7 国民性の国際比較調査 —計量的文明論に向けて—
8 統計的日本人研究 —「日本人の国民性調査」の半世紀—
9 QOL測定の信頼性と妥当性
10 脳機能の計量
11 顔と表情と魅力 ～その計量～
12 多変量解析の最近の発展をめぐって
13 音声の知覚と認識
14 金融商品選択行動からの消費者特性影響の評価
15 魅力工学—魅力の測定と魅力の創造—
16 言語の分析
17 行動計量学における統計ソフトの役割
18 マルチエージェントシミュレーション

これらの特別セッションに協力いただき、大会全体の協賛学会となっている学会は次のとおりです。

「計量国語学会」、「日本図学会」、「日本発達心理学会」、「日本法社会学会」、「日本オペレーションズリサーチ学会マーケッティングエンジニアリング部会」、「日本スポーツ心理学会」、「日本音響学会」、「日本顔学会」、「認知神経科学会」、「日本国際政治学会」、「日本計算機統計学会」。これらの学会の会員は、第28回大会に関しては、会費等の点で、日本行動計量学会の会員と同等に扱われます。なお、特別セッションの発表者は、当該のセッションに出席する限りにおいては、会費を必要としません。

当日の発表は、全て、口頭にて行われます。各会場に、液晶プロジェクターと、OHPを用意いたします。液晶プロジェクターを使用する方は、原則として、パソコンをご持参ください。また、スライドをご希望の方は、あらかじめ、事務局までご連絡ください。

また、会期の一日前、10月6日(金)には、チュートリアルセミナーが開かれます。会員の方、非会員の方、ともに出席できます。特に、若い研究者、大学院生、学部生など、ご参加をお待ちしています。

(1) 一般逆行列・射影行列の基本概念とその多変量解析への応用
　講師　柳井晴夫(大学入試センター)
(2) EXCELによる統計データの解析
　講師　縄田和満(東京大学)

以上の説明、十分ではありませんが、詳細は、大会Webページ http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/ を参照してください。また、質問のある方は、BSJ2000@bayes.c.u-tokyo.ac.jp をご利用ください。

(大会実行委員長，繁桝算男)

運営委員会からのお知らせ

運営委員長 山岡和枝

・運営委員会ではチュートリアル・セミナー、シンポジウム、春の合宿セミナー、講習会、ワークショップ等の企画・運営や、小グループ研究会の研究資金援助、学会ホームページの運用の補佐、等を行っております。学会をより活性化させるためには会員の声をより反映させた企画・運営を行っていくことが大切と考えます。今期(2000年4月～2003年3月)の運営委員は下記の方々にお願いいたしました。学会への要望や意見などありましたら、気軽にお近くの運営委員までご連絡下さい。

青木　繁伸　(群馬大学社会情報部)
朝野　熙彦　(専修大学商学部)
大森　拓哉　(東京大学大学院総合文化研究科・教養学部)
岡太　彬訓　(立教大学社会学部)
菊地　賢一　(大学入試センター研究開発部)
椎名久美子　(大学入試センター研究開発部)
繁桝　算男　(東京大学総合文化研究科生命環境科学系)
西川　浩昭　(筑波大学医療技術短期大学部)
西山　悦子　(新潟大学医学部保健学科)
橋本　昌児　(ＮＨＫ放送文化研究所)
林　　理　(武蔵野女子大学現代社会学部)
廣瀬　英子　(東京女子大学現代文化学部)
前田　忠彦　(統計数理研究所)
松本　正生　(埼玉大学経済学部)
柳原　良造　(㈱マーケティング・サービス)
山口　和範　(立教大学社会学部)
吉村　宰　(岡山大学教育学部)

(あいうえお順)

・第28回大会に際してチュートリアル・セミナーを10月6日午後に開催する予定です。ふるってご参加下さい。

・2000年度小グループ研究会として「選手特性調査」研究会（代表　小林敬子）、「家庭環境と食行動の計量分析」研究会（代表　岩澤美帆）、計量社会学研究会（代表　村瀬洋一）が採択されました。

なお、運営委員会では、今後、小グループ研究会のあり方や地方支部の活動やspecial interest group形式のいわゆる分科会活動などの活動形態について検討していきたいと考えております。これらに関しましても、会員の皆様からのご意見をお寄せ下さい。

1999年度小グループ研究会の活動記録

行動科学研究会

代表者：海野道郎(東北大学)

幹事：木谷 忍(東北大学)

１９９９年度の行動科学研究会での通常会合は、計７回である。また、東北分析農業研究会との共催で、シンポジウム「フードシステムをめぐる諸問題」を岩手県雫石町にて開催した。

研究会報告の内容は極めて多様なものであった。マッチング理論、自由回答のコーディング、マーケットでのリスクなど従来の統計的技法だけではなく、社会選択や人工知能、ＯＲなど幅広い分野からの技法の応用が目立った。また、東北農業分析研究会との共催シンポジウムは有意義であったが、岩手県での開催のため逆に研究会のメンバーの参加が極めて少ないという結果になってしまい、東北地方という広い地域での研究会運営の難しさを実感した。

（第１回会合）日時：平成１１年６月２８日（月）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：原 純輔（東北大学文学部）
題目：『労働市場の変化と職業威信スコア』

（第２回会合）日時：平成１１年７月２９日（木）
場所：東北大学文学部中会議室
報告者：富山 慶典（群馬大学社会情報学部）
題目：『社会的マッチング理論にもとづく研究室配属制度の設計』

（第３回会合）日時：平成１１年９月２５日（土）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：三隅 多恵子（東北大学文学部）
題目：『ドメスティック・バイオレンスの多様な形態と理論的アプローチ』

（第４回会合）日時：平成１１年１０月２５日（月）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：木谷 忍（東北大学農学部）
題目：『機会平等政策の論理と資源配分モデル－モデル適用のための社会経済地位データの計量－』

（第５回会合）日時：平成１１年１１月２９日（月）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：鈴木 賢一（東北大学経済学部）
題目：『VaRによるマーケットリスクの計測について』

（第６回会合）日時：平成１１年１２月２２日（水）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：高橋 和子（敬愛大学国際学部）
題目：『自由回答のコーディング支援－格フレームによるＳＳＭ職業コーディング自動化システム－』

（第７回会合）日時：平成１２年１月２２日（土）
場所：東北大学文学部行動科学分析室
報告者：辻 竜平（カリフォルニア大学）
題目：『集団構造の変化と囚人のジレンマにおける行動の変化』

＜東北農業分析研究会との共催シンポジウム＞
テーマ「フードシステムをめぐる諸問題」
日時：1999年12月17日 岩手県雫石町鶯宿温泉 長栄館
司会：土井時久(岩手県立大学)
パネラー：
中嶋 康博 (東京大学)
『食の安全性とフードシステム』
綱島不二雄 (山形大学)
『フードシステムにおける維持可能な発展』
長谷部 正 (東北大学)
『フードシステムにおける倫理』
コメンテーター：三浦 昭悦(ラドファ常務)

進化ゲーム理論研究会

代表者：小林 盾

進化ゲーム理論研究会では、進化ゲーム理論を用いて、協力的な価値や規範が社会集団の中でどう進化できるのかを検討している。1999年度には成果として、合意形成において協力が競争よりも進化しやすいこと、社会的ジレンマであっても相互作用がランダムでないならば協力が生じうることなどを明らかにした。

活動は、研究会の定例会を毎週開き、また合宿を1回行った。定例会では、各参加者が自分の研究成果を報告し、それを議論した。合宿ではとくに時間をかけて一報告につき2時間以上使って、つぎに挙げる報告などを議論した。合宿は、伊豆の稲取で1999年7月20日と21日に行われた。

小林「合意形成における評価戦略の進化」は、合意形成が繰り返されるならば、競争的な人々は駆逐されて協力的な人々だけが残ることを明らかにした。この結果は、なぜ民主主義や租税制度を人々が支持するのかを考えるときに、役立つであろう。金井「多水準淘汰による協力の進化」は、多水準選択（群淘汰）によって協力が進化するには、ランダムではなく協力する者が他の協力する者を選り好みして団結する必要があることを、シミュレーションによって明らかにした。大浦「農耕戦略の進化モデル」はまず、農耕が進化するためには、フリーライダーを監視する者が必要であることを示す。続いて大浦「レギュレーターの進化モデル」は、監視して制裁する者が移住を拒否する者と共に進化することによって、協力が進化することを明らかにした。

このほか、小林「3人以上でのゲームにおける進化的に安定な戦略」は、「進化的に安定な戦略」(ESS)という進化ゲーム理論のもっとも中心的な概念を拡張して、これまでの2人ゲームだけでなく3人以上のゲームでも利用できるようにした。この拡張によって、進化ゲーム理論を社会現象に応用することが容易となった。というのは、社会運動や合意形成といった社会現象は、一般に3人以上に担われているためである。

計量社会学研究会

代表者：村瀬洋一

さまざまな所属の研究者が集まり、1年間で8回の研究発表会を行った。社会科学的データの計量分析や計量社会学に関する各自の最新の研究成果を発表し、討論を行った。実証的な社会科学研究について、研究上の知見を得て議論を行い、考察を深めることができた。6月は、活動補助金を用いて遠方から発表者を招き、研究上の交流をすることができた。各回の発表者と内容は以下の通り（新しい回順）。

3月13日（月）
　発表者　元治　恵子氏（立教大学）
　発表題目「職業評定の構造」
1月22日（土）
　発表者　織田　輝哉氏（慶應義塾大学）
　発表題目「所得分配イメージと公正感」
11月13日（土）
　発表者　高橋　和子氏（敬愛大学）
　発表題目「自然言語処理技術からみた自由回答の処理に関する考察」
9月9日（木）
　発表者　鹿又　伸夫氏（北海道大学）
　発表題目「世代間移動の開放性は世代内移動がもたらす？」
7月31日（土）
　発表者　数土　直紀氏（学習院大学）
　発表題目　「有職男性の階層帰属意識ー吉川(1998)と前田(1998)との比較を通して」
6月19日（土）
　発表者　山口　一男氏（シカゴ大学）
　発表題目「ネットワークを通じての情報伝播とその構造的決定要因」
5月29日（土）
　発表者　村瀬　洋一氏（立教大学社会学部）
　発表題目「政策志向の規定メカニズムー共分散構造分析による1995年ＳＳＭ調査の分析」
4月24日（土）
　発表者　島　一則氏（東京工業大学）
　発表題目「大学進学行動の経済分析　ー収益率研究の成果・現状・課題」

第１０回日韓統計会議開催のご案内

(JKCS-2000：Statistical Prediction and Computing)

第１０回日韓統計会議を２０００年１２月４日－５日に別府市の B-Con Plaza において開催することになりました。日韓統計会議は、１９８２年の岡山での第１回会議以降２、３年毎に開催されています。前回は１９９７年１２月に韓国済州島で第９回が行われ、今回が１０回目となります。今回の会議につきましては、行動計量学会をはじめ、統計関連学会から後援をいただいております。

第１０回会議のテーマは "Statistical Prediction and Computing" です。テーマに関連する話題を中心に広い分野での学会員の皆様の講演申し込みをお待ちしております。

なお、最新情報をホームページにおいて随時提供いたしておりますので、詳細につきましてはそちらをご覧下さい。

開催要項は以下の通りです。

テーマ：Statistical Prediction and Computing
日　時：２０００年１２月４日（月）―５日（火）
場　所：B-Con Plaza （別府）
締　切：
　講演申し込み　　２０００年９月３０日
　　タイトル、講演者氏名・所属、アブストラクト
　会議録論文　　２０００年１０月３１日
　　A4版　２ページから６ページ（偶数ページ）
　参加申し込み　　２０００年１０月３１日
　　参加費無料、懇親会費　５０００円程度

Joint Program Committee
Japanese side:
BABA, Yasumasa (Institute of Statistical Mathematics)
OCHI, Yoshimichi (Oita University)
SATO, Yoshiharu (Hokkaido University)
TANAKA, Yutaka (Okayama University, Co-chair)
TARUMI, Tomoyuki (Okayama University)
Korean side:
BAE, Jongsung (Chonnam University)
CHO, Sinsup (Seoul National University, Co-chair)
HUH, Myung-Hoe (Korea University)
LEE, Jae June (Inha University)
SOHN, Joong Kweon (Kyungpook University)

連絡先（大会事務局）
〒700-8530 岡山市津島中３－１－１
岡山大学環境理工学部　栗原　考次
Fax: 086-251-8552
e-mail: jkcs2000@stat.ems.okayama-u.ac.jp
ホームページ：http://www.stat.ems.okayama-u.ac.jp/jkcs2000/

計量心理学会国際大会開催のお知らせ

(International Meeting of the Psychometric Society)（略称：IMPS 2001）

Psychometric Society（計量心理学会）の国際会議が、このたび日本で初めて開催されることになり、日本行動計量学会には後援学会となることを了承して頂きました。会員の皆様方のご参加、ご発表、よろしくお願い申し上げます。

期日：2001年7月15日－19日
場所：大阪大学コンベンションセンター（大阪大学吹田キャンパス内）
発表内容：主成分分析、因子分析、共分散構造分析、多次元尺度法、教育測定(古典的テスト理論を含む)、項目反応理論、多重配列データの解析、分類／クラスター分析、数量化理論／等質性分析、統計的推論と統計モデル、グラフィカル分析、欠測値データの分析、市場調査の方法他、に関する理論的および応用的研究
発表申し込み：300語以内の英文要約（題目、発表者氏名記入）を2001年1月20日までに下記に送付のこと
送り先：(1)郵送の場合：〒153-8902　東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学総合文化研究科心理学教室 繁桝算男宛 (2)メールの場合：imps-submit@rikkyo.ac.jp を利用してください。

なお、本国際会議についての参加登録の仕方等の詳細は http://www.ir.rikkyo.ac.jp/imps2001/、また、この会議につきましてのご質問がある場合は、大会組織委員会〈委員長：柳井晴夫、大学入試センター研究開発部〉(e-mail: imps@rd.dnc.ac.jp) までご連絡ください。

第2回日本感性工学会
総会講演会

21世紀の潮流　感性産業

会期：2000年9月14日(木)、15日(金)
会場：工学院大学新宿キャンパス (東京都新宿区西新宿1-24-2、ＪＲ・京王・小田急各線新宿駅西口下車徒歩5分)
プログラム
◆大会
＜発表種別＞(A)一般発表、(B)ポスターセッション、(C)製品展示
◆特別講演
9月14日(木)
「グローバルエンジニアリング」
大橋　秀雄(工学院大学学長)
「感性産業」を語る
丸山　茂雄(ソニーミュージックエンターテイメント)
9月15日(金)
「ファッションデザインに関する講演」
◆懇親会・ワインパーティ等
懇親会：9月14日(木) 18:00 ～ 20:00
ワインパーティ＆エンディングパーティ：
9月15日(金) 16:00 ～ 18:00
〒104-0045
東京都中央区築地4-12-2 ライオンズマンション東銀座1005
日本感性工学会事務局
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jske/

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆ 第36回日本臨床心理学会大会
会　期：2000年9月7日（木）～9日（土）
会　場：岡山県総合福祉会館（岡山市）
照会先：日本臨床心理学会事務局（国立精神・神経センター内）
Tel: 047-372-0141(1331), Fax:047-375-4767

☆ 第1回ＱＯＬ学会および第39回ＱＯＬ研究会
会　期：2000年9月9日（土）
会　場：国立感染症研究所
（新宿区戸山1-23-1, Tel;03-5285-1111）
照会先：国立循環器病センター　萬代　隆
Tel:06-6833-5012
E-mail: qolmanda@nona.dti.ne.jp
http://www.nona.dti.ne.jp/~qolmanda

☆ 日本認知言語学会設立記念大会
会　期：2000年9月9日（土），10日（日）
会　場：慶應義塾大学三田キャンパス
（港区三田2-15-45）
照会先：日本認知言語学会（JCLA）事務局
〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1
慶應義塾大学新研究室棟　辻　幸夫研究室内
Tel: 045-563-1111(代表)
E-mail: jcla@nifty.com
http://homepage2.nifty.com/jcla/

☆ 第6回社会言語科学会
会　期：2000年9月9日（土），10日（日）
会　場：中京大学八事校舎
（名古屋市昭和区八事本町101-2）
照会先：社会言語科学会事務局
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1
専修大学文学部永瀬研究室内
E-mail: thb0308@isc.senshu-u.ac.jp
http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/

☆ 日本応用心理学会第67回大会
会　期：2000年9月9日（土），10日（日）
会　場：神戸親和女子大学
照会先：神戸親和女子大学人間科学科　坂野登
Tel: 078-591-3903, Fax:078-591-2279

☆ 日本心理臨床学会第19回大会
会　期：2000年9月14日（木）～16日（土）
会　場：京都文教大学，国立京都国際会館
照会先：（財）日本学会事務センター内日本心理臨床学会第19回大会準備委員会事務局
Tel: 03-5814-5800, Fax:03-5814-5823

☆ 日本教育心理学会第42回総会
会　期：2000年9月16日（土）～18日（月）
会　場：東京大学駒場キャンパス
照会先：総会準備委員会
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院教育学研究科内
Tel:03-5841-3951, Fax: 03-5841-3919
E-mail: jaep@p.u-tokyo.ac.jp

☆ 日本性格心理学会第9回大会
会　期：2000年9月23日（土），24日（日）
会　場：愛知学院大学日進学舎
照会先：大会準備委員会
〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12
愛知学院大学情報社会政策学部
Tel: 05617-3-1111(内線229)
Fax: 05617-3-4403

☆ 第30回数理社会学会大会
会　期：2000年9月30日（土），10月1日（日）
会　場：滋賀大学彦根キャンパス
照会先：大会事務局
〒522-0069 彦根市馬場1-1-1
滋賀大学経済学部　永田研究室気付
Tel:0749-27-1030(事務), 27-1125(研究室)
Fax:0749-27-1132(総務係)
E-mail: nagata@biwako.shiga-u.ac.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jams/index.html

☆ 日本グループ・ダイナミックス学会第48回大会
会　期：2000年9月30日（土），10月1日（日）
会　場：東洋大学白山校舎（東京都文京区）
照会先：大会準備委員会
〒112-8606　東京都文京区白山5-28-20
東洋大学社会学部社会心理学科内
Fax: 03-3945-7626（社会学部事務室）
E-mail: gd2000@soc.toyo.ac.jp (担当北村)
http://www.soc.toyo.ac.jp/gd2000/index.html

☆ 教育工学関連学協会連合第6回全国大会
会　期：2000年10月7日（土）～10月9日（月）
会　場：鳴門教育大学 学校教育学部
（徳島県鳴門市鳴門町島字中島748）
照会先：大会実行委員会
専用携帯:090-8282-4960, Fax:088-687-2180
E-mail: jcet6@naruto-u.ac.jp
http://www.naruto-u.ac.jp/jcet6/

☆ 日本公衆衛生学会第59回総会
会　期：2000年10月18日（水）～20日（金）
会　場：グリーンドーム前橋（前橋市）
照会先：群馬県保健福祉部保健予防課
Tel:027-226-2601, Fax:027-223-7950
群馬大学公衆衛生学
〒371-0034 前橋市昭和町3-39-22
Tel:027-220-8010, Fax:027-220-8016

☆ 日本社会心理学会第41回大会
会　期：2000年11月3日（金），4日（土）
会　場：関西大学千里山キャンパス
照会先：大会準備委員会事務局
〒564-8680　吹田市山手町3丁目3番35号
関西大学社会学部　土田研究室内
Tel:06-6368-1121(ext.5565), Fax:06-6368-0735
E-mail:jssp2000@soc.kansai-u.ac.jp
http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~jssp2000/

☆ 日本心理学会第64回大会
会　期：2000年11月6日（月）～8日（水）
会　場：国立京都国際会館
（京都市左京区宝ヶ池）
照会先：大会準備委員会
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科心理学研究室内
Tel:075-753-2753, Fax:075-753-2835
E-mail: jpa2000@psy.bun.kyoto-u.ac.jp
http://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/jpa2000/

☆ 日本社会学会第73回大会
会　期：2000年11月11日（土），12日（日）
会　場：広島国際学院大学　現代社会学部
（広島市安芸区上瀬野町517-1）
照会先：日本社会学会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学文学部社会学研究室内
Tel:03-5841-8933, Fax:03-5841-8932
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jss/index.html

☆ 応用統計学会第22回シンポジウム
会　期：2000年11月16日（木），17日（金）
（16日午前はチュートリアル・セミナー）
会　場：神戸大学瀧川記念学術交流会館
（神戸市灘区六甲台町1-1）
テーマ：統計モデルの構築と妥当性評価
照会先：応用統計学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9
大和ビル2F (財)統計情報研究開発センター内
FAX: 03-5467-0484
E-mail: applstat@sinfonica.or.jp
http://www1.sinfonica.or.jp/~applstat/

＜シンポジウム等＞

☆ 第7回日中統計シンポジウム(JCSTAT7)
会　期：2000年10月28日（土）～11月1日（水）
会　場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）
照会先：プログラム委員会
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学経済学部　竹村彰道
Fax:03-5841-5521
E-mail: takemura@e.u-tokyo.ac.jp
http://www.e.u-tokyo.ac.jp/jcstat7/

☆ 第40回ＱＯＬ研究会
日　時：2000年11月25日（土）13:00～18:00
会　場：大阪第一生命ビル会議室
（大阪市北区梅田1-18-17）
特別講演：日野原重明「ＱＯＬとインフォームドコンセント」, 柏木哲夫「ＱＯＬとユーモア」, 小島操子「グリーフケアとＱＯＬ」, 今田寛「心理学とＱＯＬ」
照会先：国立循環器病センター　萬代　隆
Tel:06-6833-5012,
E-mail: qolmanda@nona.dti.ne.jp
http://www.nona.dti.ne.jp/~qolmanda
（第39回研究会は＜学会大会等＞の項参照）

☆ 統計数理研究所公開講演会

「インターネット調査とそれを巡る諸問題」
日　時：2000年11月2日（木）13:30 ～ 16:00
会　場：統計数理研究所講堂
（東京都港区南麻布4-6-7）
（予約不要，入場無料）
講演：林知己夫「調査環境の変化と新しい調査法の抱える問題」，大隅昇「電子調査，その周辺の話題 －電子的データ取得法の現状と問題点－」，横原東「マーケティングにおけるインターネット調査の実状と課題」，吉村宰「インターネット調査にみられる回答者像，その特性」
照会先：統計数理研究所　　Tel:03-3446-1501
http://www.ism.ac.jp/

☆ 第10回日韓統計会議(JKCS-2000)

会　期：2000年12月4日（月），5日（火）
会　場：B-Con Plaza(大分県別府市)
テーマ：Statistical Prediction and Computing
照会先：大会事務局
〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
岡山大学環境理工学部 栗原 考次
Fax:086-251-8552
E-mail:jkcs2000@stat.ems.okayama-u.ac.jp
http://www.stat.ems.okayama-u.ac.jp/jkcs2000/

☆ 2nd International Symposium on Frontiers of Time Series Modeling (時系列モデリングの最前線)

Nonparametric Approach to Knowledge Discovery
会　期：2000年12月14日（木）～12月17日（日）
会　場：奈良県新公会堂
主　催：統計数理研究所
照会先：シンポジウム実行委員長　樋口知之
組織委員長　瀧澤由美
〒106-8569 港区南麻布4-6-7
統計数理研究所
http://www.ism.ac.jp/~higuchi/sympo2/
Fax: 03-5421-8749
E-mail: higuchi@ism.ac.jp, takizawa@ism.ac.jp

＜チュートリアル等＞

☆ 応用統計学会チュートリアル・セミナー

期　日：2000年11月16日（木）9:30 ～ 12:00
会　場：神戸大学瀧川記念学術交流会館
（神戸市灘区六甲台町1-1）
参加費：正会員2,000円，非会員5,000円，
学生1,000円
テーマ：統計的推測における正確法と近似法
講　師：岩崎学(成蹊大学)，浜田知久馬(東京大学)
照会先：応用統計学会事務局
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9
大和ビル2F (財)統計情報研究開発センター内
FAX: 03-5467-0484
E-mail: applstat@sinfonica.or.jp

☆ 日本性格心理学会第9回大会講習会

期　日：2000年9月23（土）13:00 ～ 16:00
会　場：愛知学院大学日進学舎・学院会館:会議室
（愛知県日進市岩崎町阿良池12）
参加費：大会参加者1,000円，非参加者2,000円，
非参加学生1,000円
テーマ：項目反応理論の性格心理学における応用
講　師：野口裕之(名古屋大学教育学部)ほか
照会先：前田忠彦（日本性格心理学会経常的研究交流委員会　講習会担当）
〒106-8569 港区南麻布4-6-7 統計数理研究所
FAX: 03-5421-8796
E-mail: maeda@ism.ac.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jspp/index.html

公募情報

時期的に非常に多くの公募が出ています。例えば、NACSIS-CIS（下記参照）のキーワード検索でヒットした公募の件数（8月上旬の数字）は、「行動」で14件、「計量」で11件、「測定」または「評価」で31件、「統計」で19件、「社会学」で35件、「社会調査」で7件、「心理学」で30件、「マーケティング」で5件、「教育工学」で9件、「情報科学」で20件、「認知」で8件、「看護学」で19件、「社会医学」で5件、「公衆衛生」で4件、などとなりました。ここでは会員各位の個別専門分野にまたがる紹介はさけ、統計学がキーワードとなりうるもののみ紹介します。

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、研究者等の公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。文部省情報学研究所（旧学術情報センター）の「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。

http://cis.nacsis.ac.jp/

ただし、以下には、上記ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ 東京大学海洋研究所

所　属：海洋生物資源部門　資源解析分野
採用人員：教授1名
部門内容：本部門は海洋生物資源の変動機構や管理手法について、生物学的、物理学的、数理学的および資源計測の手法を用いて研究を行っている。本公募の資源解析分野では、主として資源評価の統計的手法や資源の管理手法について研究してきた。
応募期限：2000年9月11日
照会先：海洋資源部門　資源生態分野教授　渡邊良朗　E-mail: ywatanab@ori.u-tokyo.ac.jp
Tel: 03-5351-6497
http://www.ori.u-tokyo.ac.jp/

☆ 下関市立大学

採用人員：教授、助教授または講師1名
担当科目：統計入門、基礎統計、コンピュータ入門
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年9月14日
照会先：下関市立大学　事務局庶務係
〒751-8510 下関市大学町2-1-1
Tel:0832-52-0288(代表)
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

☆ 岡山大学環境理工学部

所　属：環境数理学科環境統計科学講座
採用人員：教授1名
担当授業科目：教養統計学（教養科目）、環境統計科学ＩＩ（環境数理学科）、環境統計解析学特論（自然科学研究科博士前期課程）、環境統計モデル（自然科学研究科博士後期課程）
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年9月15日
照会先：環境数理学科　田中　豊
〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
Tel:086-251-8831, Fax:086-251-8837
e-mail:tanaka@stat.ems.okayama-u.ac.jp

☆ 北海道教育大学旭川校

講座名　：数学教育講座
採用人員：文部教官助教授1名
専攻分野：情報科学
担当科目：学部：生涯教育課程生活情報コースにおいて、情報理論、モデル化とシミュレーション、アルゴリズム、プログラミング演習、情報処理演習、学校教育教員養成課程数学教育専攻において、統計学、コンピュータ。大学院：教育学研究科修士課程数学教育専修において、解析学特論、解析学特別演習、または代数学特論、代数学特別演習
採用予定：2001年2月1日
応募期限：2000年9月29日
照会先：生涯教育課程生活情報教室主任　西内義男, E-mail:nisiuchi@atson.asa.hokkyodai.ac.jp
Tel:0166-59-1353, Fax:0166-59-1209(庶務係)

☆ 神奈川工科大学一般科

採用人員：専任講師または助教授1名
専攻分野：数学（分野は問わない）
担当科目：微分積分学ＩＩ、線形代数学ＩＩ、微分方程式、関数論ＩＩ、確率統計など
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年10月7日
照会先：一般科教員選考委員会委員長　米田二良教授　E-mail: komeda@gen.kanagawa-it.ac.jp
Tel:046-291-3112, Fax:046-241-4262

☆ 明治学院大学経済学部

採用人員：教授、助教授または専任講師1名
担当授業科目：マーケティング・リサーチ、マーケティング管理論、流通論。ただし将来、経営統計学を担当できること。
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年10月10日
照会先：経済学部経営学科主任教授　清水　聰
Tel:03-5421-5206, Fax:03-5421-5207
e-mail:b-chair@eco.meijigakuin.ac.jp

☆ 立命館大学文学部

所　属：心理学科（設置認可申請中）
採用人員：助教授1名
担当科目：心理学研究法のうちの実験的研究法、心理学統計法、知覚心理学、感覚情報処理論など、心理学科の科目。ただし、任用後の3年間は、既設の文学部人文総合科学インスティテュート「人間と情報」領域の科目の一部（認知科学実験実習など）も担当する。
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年10月23日
照会先：立命館大学文学部事務室
Tel:075-465-1111（代）, Fax:075-465-8188
文学部心理学研究室主任　松田　隆夫
Tel:075-466-3191, Fax:075-465-7882

☆ 甲南大学理学部

所　属：応用数学科
採用人員：教授、助教授または講師1名
専攻分野：数理情報
担当科目：幾何学の他、下記のいくつかを予定、情報幾何、線形代数、線形代数演習、微分積分及び演習他
応募期限：2000年10月31日
採用予定：2001年4月1日
照会先：甲南大学理学部応用数学科
主任 田口友康
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
E-mail:taguchi@konan-u.ac.jp
Tel:078-435-2535, Fax:078-452-5507

会員の著書等

☆ M. Grabisch, T. Murofushi, & M. Sugeno "Fuzzy Measures and Integrals: Theory and Applications", Physica-Verlag, 2000.
☆永田　靖　「入門実験計画法」　日科技連出版社，2000年
☆垂水共之　「LISP-STATによる統計解析入門」共立出版，1999年
☆山本嘉一郎・小野寺孝義・竹村和久　「新版SPSS Xオプション編」東洋経済新報社，2000年
☆椿　広計・藤田利治・佐藤俊哉(編)「これからの臨床試験－医薬品の科学的評価－原理と方法」　朝倉書店，1999年

日本行動計量学会Webページ

http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

第28回大会Webページ

http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/

日本行動計量学会会員数

（2000年6月30日現在）

正会員	1009名
準会員	63名
名誉会員	6名
賛助会員	19社

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
学会センター C-21
（財）日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL: 0298-53-3071，FAX: 0298-53-3072
e-mail：sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒565-0871 吹田市山田丘1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野　裕

編集後記

今号から作成担当を一人増強し、菊地賢一・前田忠彦・西山悦子の体制で会報を作成しました。今後は学際的な学会にふさわしい、より各分野のバランスのとれた会報を目指していきたいと思います。

それはさておき、いよいよ10月の第28回大会が近付いてまいりました。この会報と一緒に、プログラムが同封される予定ですが、会員の皆様には、ぜひご参加いただければと思います。なお、懇親会の方へも、ぜひご出席いただきたいと思います。^_^

また、今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

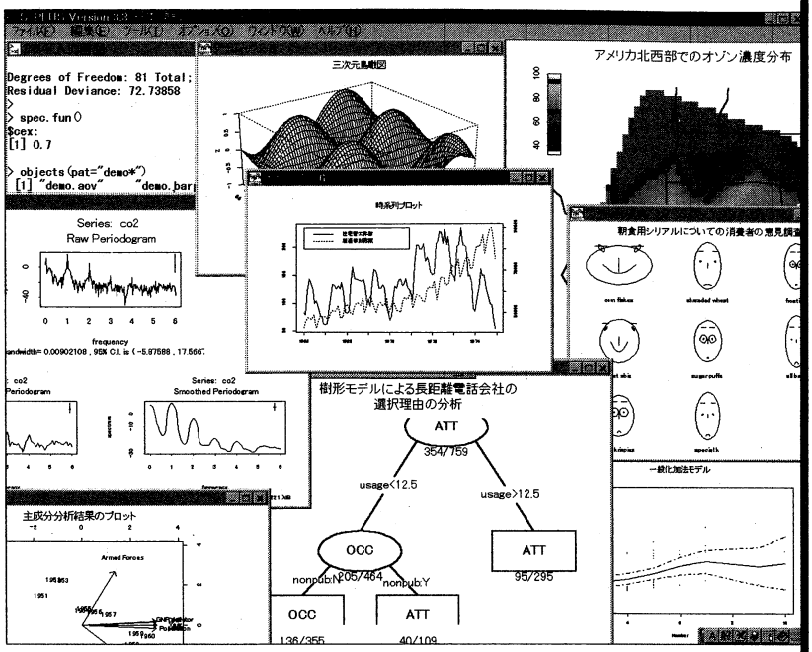
皆様からの情報をお待ちしております。

〒153-8501 東京都目黒区駒場2-19-23
大学入試センター研究開発部
菊地賢一 kikuchi@rd.dnc.ac.jp
TEL：03-5478-1273
FAX：03-5478-1297

会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子

MATHEMATICAL SYSTEMS INC.

創造あふれる研究開発のための
オブジェクト指向データ解析システム



S-PLUS

全国の著名企業・研究機関・大学での豊富な実績を誇ります

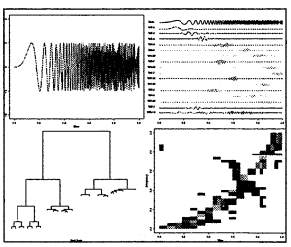
S-PLUSは高度なデータ解析機能と豊富なグラフィックス機能の両方を備えた本格的なデータ解析システムです。
対話型の素早い明快な処理で利用者の創造性を大幅に支援し、オブジェクト指向に基づく卓越したデータハンドリング能力により、データの可視化・再加工・再解析というフィードバックループを納得いくまで何度も繰り返すことができます。

主な特長

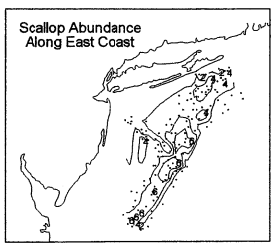
- ●一千以上の高度で最新の解析機能
  （基本演算、行列演算、探索的データ解析、線形代数、時系列解析、多変量解析、各種回帰分析、分散分析、線形モデル、検定、シミュレーション、OR　その他）
- ●数十種類のカスタマイズ自在なグラフィックス機能。
- ●オブジェクト指向のS言語による本格的なプログラミング機能により、個別の解析システムを簡単に構築できます。GUI構築ツールを備え、DDEやOCBCにも対応します。
- ●常設のトレーニングコースその他の強力なサポートでソリューションを側面支援します。数理科学を専門とするスタッフが、個別のコンサルティングにもお応えします。

特定分野ソリューションのためのアドオンモジュール

- ●S+WAVELETS　話題のウェーブレット解析のための500以上の機能
- ●S+DOX　実験計画法のための数多くの関数とグラフィックス
- ●S+SpatialStats　環境・資源工学などで話題の本格的空間統計モジュール
- ●S+GARCH　金融工学などで話題のGARCHモデルのために
- ●S+AVS　高性能3次元CGツールとAVSとのリンクモジュール
- ●S+GISlink　地理情報システムARC/INFOデータを本格的に解析可能



S+WAVELETS



S+SPATIALSTATS

対応機種、OS	主要UNIX *SunSPARC、HP9000、IBM(AIX)、DECalpha (UNIX)、SGI、NEWS*	Windows *DOS/V、PC98(Windows95、NT)*

※S-PLUSはMathSoft,Inc.が開発しライセンスしています。
※AVSはAdvanced Visual Systems Inc.が開発しライセンスしています。
※会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
（詳しい製品情報はS-PLUSホームページhttp://www.msi.co.jp/splus/をご覧ください。）

S-PLUS無料紹介セミナー定期実施中
当社新宿セミナールームにて、一人一台のパソコンを用いてS-PLUSをご説明さしあげています。お気軽にお申し込み下さい。

S-PLUSおよびAVSのお問い合わせ先

株式会社 数理システム S-PLUSグループ
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3 フォーシズンビル10F
TEL.03-3358-6681（直通）FAX.03-3358-1727
e-mail:splus-info@msi.co.jp（URL）http://www.msi.co.jp/splus/
お問い合わせ：平日10:00～17:00（FAX、e-mailは24時間随時）